

分科会 9月10日 15:00~16:50

9月11日 9:00~11:30

つどいのポイント②

今、私たちが直面している課題ごとにテーマ設定をした分科会。2日にわたって語り合います！



【第1分科会】(災害から見た地域福祉活動)

災害時に問われる“つながり”

～考えよう！明日は我が身の災害支援～

阪神・淡路大震災以降、災害ボランティアが注目され、被災地の社協は早期に災害ボランティアセンターを立ち上げることが期待されています。私たちがすべきことは本当にそれだけでしょうか？

この分科会では、社協にしかできない協働による災害支援にスポットをあてながら、普段の地域福祉活動のあり方を一緒に考えます。

【第2分科会】(権利擁護・エンパワメント)

いままでもこれからも安心と信頼を得るために

～社協本来の自立支援へのアプローチ～

社協を取り巻く環境が大きくかわる中、私たちの悩みや不安はつきません……。

いままでも、これからも、地域で暮らしたいと願いつづける方たちにかかわる社協ワーカーの活動事例(介護保険事業、地域福祉権利擁護事業等)を通して、いま一度、社協だからできる「生活をささえる」アプローチについて、みんなで一緒に考えてみませんか。その人の自分らしい暮らしをサポートするためのヒントが見つかるはず！！

【第3分科会】(ソーシャルインクルージョン)

見逃すな！生きづらさからの発信！

～当事者の力を福祉コミュニティづくりの原動力へ～

当事者(何らかの生活課題を抱える人)の想いや活動が住民の心を動かし、地域を変えた例はありませんか？反対に当事者が地域でくらすことに、近隣住民から不安を訴えられたことはありませんか？当事者が地域の一員としてくらすとすると、彼らを支援しようとする動きと敬遠・排除しようとする動きがあります。その違いは何でしょうか。当事者自身の力が地域を変えることを再確認しながら、その中で社協職員は何をすべきか考えます。

【第4分科会】(まちづくり・地域支援)

“無関心層”を地域の力にするために…

あなたの地域では、生活の問題について本音で語り合っていますか？

社協は、福祉力の高い地域のみアプローチしていませんか？

私たちは、どんな地域の姿をえがきながら、まちづくりをすすめていくのでしょうか。

地域の中には、まだまだ住民の力が潜んでいるはず！？可能性は無量大！！それを引き出すのが社協活動の醍醐味といえます。

「福祉はちょっと…」という住民に、あなたならどのようにアプローチしますか？

そんな疑問を一緒に考える分科会です。

【第5分科会】(地域福祉活動と共同募金)

地域をささえる、あのお金。

1万円が100万ドルの価値を生む！？

「給食サービスに50万円、入浴サービスに30万円、団体助成が一律3万円×10。見直しせんでええんかなあ…。今、地域でほんまにお金が必要なところはどこやろか？」

地域住民の思いが込められた共同募金。社協はどう捉え、どう地域に還していけばいいのか？目的がないところにお金は集まりません。1万円で100万ドルの価値を生むために、自信をもって「金くれ」って言えますか？

この分科会では、地域の価値・地域の福祉力を高める共同募金のあり方を考えます。

【基礎講座】

教えて！コミュニティワーク

何のために社協活動をするのか、自分の業務が地域福祉をいかにささえているのか、社協ワーカーの役割について、みなさん、自分の言葉で語れていますか？

この分科会では、まず社協の役割やコミュニティワークの基礎を学びます。そして、ベテラン社協ワーカーのあゆみをご本人のその当時の想いも含めてうかがい、コミュニティワークの醍醐味と、それをささえるワーカーの技術・知識を身に付けます。新たな心意気(価値)をあなたに！！

全体会・つどい宣言 (12:30~14:00)**「社協と私たちワーカーの専門性を探る！」**

各分科会の議論を共有し、社協と私たちワーカーの課題と展望を全体で論議します。
そして、つどいで確認されたワーカーの価値と展望を、「つどい宣言」としてまとめます。

■コーディネーター 小林 茂さん (兵庫県社会福祉協議会)

記念講演 (14:00~15:20)**「地域福祉を切り拓く！」**

社協が直面している課題をワーカーがどのように受け止め、次の活路を切り開いていくのか。私たちワーカーが進むべき道を示すヒントになる講演です。

■講師 塚口 伍喜夫さん (流通科学大学 教授)
(ウルトラの父ならぬ 社協の父)

参加対象(定員)**社会福祉協議会職員 (200名)**

* 地域担当者、ケアワーカー、総務・経理担当者など、すべての社協職員のつどいです。

参加費・交流会費**参加費 5,000円、交流会費 6,000円**

- * 昼食は、各自でご用意ください。なお、当日は共同作業所よりパンの販売もあります。お楽しみに！
- * 交流会は、「神戸ハーバーランドニューオータニ」で開催します！みなと神戸の夜景をお楽しみください。

申込み方法

* 別紙「参加申込書」に必要事項をご記入の上、下記宛に郵送か FAX のいずれかでお申込みください。

申込み締め切り **2005年8月17日(水) 必着**

- * 8月下旬ごろに参加申込者および宿泊希望者に対し、参加決定通知、参加費等請求書、宿泊関係書類をお送りします。
- * 参加費等請求書到着後、参加費は振込にて納入ください。(原則として当日会場での参加費の収受は行いません。)また、一旦振り込まれた参加費については返金いたしませんので、予めご了承ください。(当日資料の発送をもって替えさせていただきます)
- * 要約筆記が必要な方、保育希望(有料)の方は、「参加申込書」の「備考欄」にその旨、ご記入ください。

[お申込み先]

東急観光(株)神戸支店(担当:藤岡、片山)
TEL:078-221-1090 FAX:078-221-1567

[問合せ先]

「第12回全国社協職員のつどい」事務局 兵庫県社協気付 担当:荻田・福本・尾崎
TEL:078-242-4634/FAX:078-242-7947/chiki@hyogo-wel.or.jp

第12回 全国社協職員のつどい 参加申込書 (兼宿泊申込書)

府県名		※太線内をすべて漏れなくご記入お願いいたします。	受付No.
社協名			参加代表者
参加通知等送付先	〒	(社協・その他)	連絡先TEL
			連絡先FAX

フリガナ 参加者名	性別	社協での 経験年数	担当・ 役職	分科会希望			宿泊希望ホテル			ツイン希望の場合 の同室希望者	参加費	交流会の 参加 (6,000円) <small>参加の場合○を記入</small>	参加費等合計 つどい参加費5,000円も 合算してご記入下さい <small>(宿泊料金は第1希望で計算して下さい)</small>	備考
				第1 希望	第2 希望	第3 希望	第1 希望	第2 希望	第3 希望					
ヒョウゴ タロウ (例) 兵庫 太郎	男			3	1	6	1-S <small>※希望者 のみ記入</small>	2-S <small>※希望者 のみ記入</small>	3-S <small>※希望者 のみ記入</small>	兵庫 花子	5,000円	○	23,800円	
											5,000円			円
											5,000円			円
											5,000円			円
											5,000円			円
											5,000円			円

※つどい参加のみの方もご記入の上、ご送付ください。 申込締切:2005年8月17日(水)必着

※なお、領収書をご希望の方につきましては、備考欄にご記入ください。

※また、要約筆記・保育を希望される方につきましても、備考欄にその旨をご記入ください。

※この申込書を郵送される場合には、必ず控えを残してください。

※6名様以上でお申し込みの場合は、この用紙をコピーしてお使いください。

《申込書送付先》

東急観光欄神戸支店

FAX 078-221-1567

〒651-0087神戸市中央区御幸通6-1-20(三宮山田東急ビル3F)

「全国社協職員のつどい」係 担当者:藤岡/片山

◆返金の際の参加者の銀行口座をご記入ください。(郵便局は不可)

銀行名			
支店名			
口座種別	普通・当座	口座番号	
口座名義	<フリガナ>		

<個人情報の取扱>つどい実行委員会及び東急観光は、本申込書等に記載された個人情報について、参加者との間の連絡に利用させて頂くほか、参加・宿泊手続きに必要な範囲内で利用させて頂きます。

過去のつどい参加者の一言感想

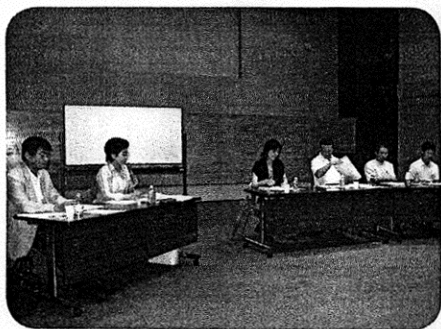
行ってパワーもろて来い！ 行ってみらんと分かんぞ！ 自分の足下がきつと見える！
飯塚市社協 藤川

長い経験の人も若手も一緒になって、社協の事を熱く語れるところです。是非参加しましょう！
うきは市社協 物部

エネルギーをもらって帰ってきて下さい。
芦屋町社協 安部

行って熱意を感じてもらいたい。全国で社協の仲間づくりをして下さい。
桂川町社協 花岡

若いワーカー（若くなくても）は、一度は参加しておくべし！ 情熱を燃え立たせよ！
筑後市社協 中山



学習したい方 語り合いたい方 刺激を求めている方 是非一緒に参加しましょう!!

久しぶりにフリートーク
ワーカー仲間の体験記

『あらっ 障害が私のものに...』

甘木市社会福祉協議会 前田 正剛

2001年（平成13年）2月3日の朝9:00頃起き、外出しようとしてリビングで着替え中、右足が正座もしていないのにシビレを感じ、ほぼ同時に右手がシビレ出し、ソファに腰掛けていたがそれも出来なくなったため、横になって救急車の到着を待った。この時間わずか20分ぐらいだったと思う。市内の脳神経外科に運ばれたが、脳幹出血を起こしている、応急措置をし、久留米大病院の救命センターに運ばれた。

不思議だろうが、発病から久留米医大に運ばれるまで意識はハッキリあった。私は脳幹の橋（きょう）の出血で手術の出来ない場所だった。何でも脳幹は、心臓や肺などを動かす呼吸器や心肺機能の中核で、多くのかたが命を取り留めても植物人間状態になっているそうである。

最近、亡くなったプロレスラーの橋本真也選手も同じ脳幹出血だったそうだ。

かたや命を無くし、私は運良く今も命をつないでいる。

約1ヶ月の急性期を久留米大病院で過ごし、その後半年を県社協そばのリハビリ専門病院で過ごした。

2002年（平成14年）1月に社協に職場復帰したが、現在も右手右足に感覚麻痺・運動失調と視覚に複視（ダブルビジョン）の後遺症が残っている。

すぐく不思議だけど、自分の障害に対し驚きや悲しみ、悲愴感や焦りをまったく感じなかった。考えてみると今まで障害を持つ方々やその親御さんたちと数多く出会う機会を頂いていたので、自分の障害に對しうまく「受容」出来たのかもしれない。

福祉系の大学を出て、この業界（社協）に約25年いるが「麻痺」を本やレポートでは見たことはあったが、事詳しく聞いたことや脳出血するまで体験したことはなかった。こんな機会を頂いていたので、私の「障害」の主なものについて書いてみよう。

【麻痺】（感覚障害）

まず、右手や右足の発症当時は正座時のシビレに似た感じではあったが、自分の手がどこにあるのか、自分の身体の下になっても分からない状況だった。

手を動かそうにも動かせず、左手で抱えないと動かせない状況だったし、血が出るくらい車イス等で挟んでも、痛みを感じることは無かった。

「半身麻痺」は半分しか温度を感じないと聞いてはいたが、風呂でその感覚を体験してみても、ビックリ!! 本当に何ともない身体の真半分は温かく、「麻痺」のある側は冷たく、おへそを境にこんなに違うとは... しかもいくら入っていても（身体は赤くなっているのに）、身体は温かく感じないなんて...

現在は、自分の手足の位置や入浴での温度感覚はしぶん戻ったけれど、自分が何かに触っている触感はまだに分からない。

最近、皮膚感覚は少し分かるようになってきたのだが、それと同時に右足ふくらはぎと関節が寝ていても、座っていても痛み、1〜3分立ったり歩いたりするのもしゃな状況である。

手の感覚がないと、物を掴む動作が非常に難しくなる、感覚がないためどのくらいの力を持っているのか分からず、落とさない程度につかむ事が出来ず、バナナの皮を剥こうと握ると中身が出るくらいつぶしてしまうし、紙コップで飲み物を飲もうとすると、かかえた瞬間コップを潰してしまったりした。

入院中に職場復帰したときにパソコン

が片手で打てるよう行ったりハビリパソコン練習の原稿に書いていたのですが、「指が物を持つ」という動作には、持つ物の重さ（重力）や持つ物の材質や表面の摩擦（摩擦係数）など、力学に影響されるので、微妙に力加減を調整している」みたいなことを書いていた、こんなに大変な物理的活動をしているなんて知らなかった。

私にとって大変なのは歩く活動です。

右足、特にふくらはぎは寝ていても、座っているときも常に握られているような痛みがあり、1〜2分その場に立つことや1kmぐらい歩くことも不得手です。歩いたり立ったりしているとき、片足立ちをしているように左足にほとんどの重心をかけているような状態です。

外で活動をしたくないとき、その建物にエレベーターがあるのか、階段に手すりがあるのか、歩く場所がどんな環境か等、元気なときには無かった様々な問題に気づかされる。

私には、手すりのない階段、特に下りの使用は不可能である。

【運動失調】

右手足が滑らかに動かすことができず、ギクシャクした動きになってしまふ。その際感覚であるが、このギクシャク感が何とも不快で、何もしていないとき

でも、いつも重苦しさや痛みを感じている。

手足を机の上に動かす際、通常最小限の力を無意識の中でコントロールしているが、発病以来どこに力を入れて良いのか分からなくなり、腕全体に無駄な力を費やしているようだ。現在は少し落ち着いたが、右上腕の筋肉が勝手に痙攣し、まるで、私の中に「もののけ姫」がいるみたい……だった。

また、右側のボディの位置が分からず、横を通り抜けようとすると、壁や机などにぶつかってしまう。

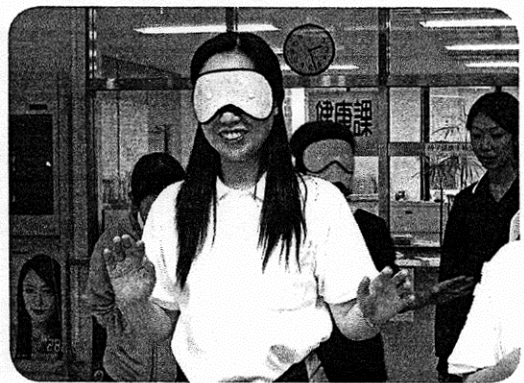
歩きながらやテレビを見ながら別のことが出来るのは、正しく小脳が活動しているためで、私は小脳の活動がうまく出来ないため、運動失調という障害をひきおこしているため、歩行は何かか自立できているのだが、バランスが取りにくく、歩行しながら会話をしたり、周りの情景を見たりが非常に不得意です。

【複視（ダブルビジョン）】

福祉のお仕事をしているから、複視ではありません。複視とは目で見える映像が、二重に見える状態である。私は脳出血の際脳幹の視神経が通っている部分も出血したらしく、映像がハッキリ二重になっているのです。

私の見え方は、右下の写真のように

複視（ダブルビジョン）ってこんな感じですよ



皆さんの見え方



私にはこんな感じで見えている

なっています。机の上のコーヒーの入ったカップも2つに見えるため虚像をつかもうとしたり、なれるまでは苦勞したし、歩くとき障害物があると、ぶつからないスペースを確認するのに片目で見ないと分かりません。

更には、脳出血で頭の中がボーとしているのに、物が二重に見えると思惟能力が落ちるようで、言われたことを頭の中で判断したり、深く物事を考えることが出来なくなっています。

主だった私の障害について書いたが、なかなか麻痺や障害について聞けないのは、自分の障害を正しく伝えることがすごく難しく、色々書いていてもピツパリ当てはまる表現が無いことに気が付いた。

実は、昨年2004年10月に今度は心筋梗塞を引き起こし、心臓のバイパス手術をし、3ヶ月も入院していた。

現在私は職場に復帰して4年ほどなるが、地域での仕事に参加していない、いや参加できていない。現場に自分で車を運転していくことが出来ないし、現場での足場を考えると勇気が出ないからである。

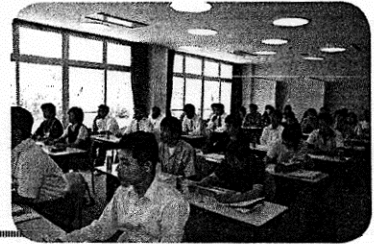
やはり、地域でいろんな人と出会い、語り合いたいと思いたいと思いつつ、悶々とした日々を過ごす毎日である。

2005年度

福岡県地域福祉
活動職員連絡会

総会報告

6月9日(木)、
うきは市社会福祉協
議会にて、本会の総
会を開催しました。



総会では、前年度の事業報告、収支決算報告ならびに、今年度の事業計画・予算について審議いただき、役員会提案通りで承認いただきました。
すでに、事業は進められておりますが、総会での決定事項について皆さまにご報告致します。

●2005年度事業計画●

【重点目標】

1. 社協の課題に即した研修活動を充実する
2. 会員の地域福祉活動職員としての資質向上を目指す
3. 地域福祉活動が活性化するような情報交換がしやすい環境づくりをおこなう

【事業】

□ 研修事業 □

▽ 社協活動についての講演会

『社会福祉協議会に期待するもの…』

岡本榮一氏講演会(7月)

▽ 他県の研修活動に学ぶ

「全国社協職員のつどい派遣」(9月)

▽ あのおばあちゃんを守るには…

「認知症高齢者等を狙った悪質業者からケースを守るために！」(11月)

▽ 社協広報はどのように作る！住民に何を伝える！(1月)

▽ 研修・交流事業 □

▽ 何かが起こった時見えたもの 何かが起こる前にすべきこと

「自然災害等による大規模災害時に住民は、社協はどう動いたか！」(12月)

□ 広報事業 □

▽ 機関誌「まなこ」発行

2005年度収支予算

〔収入の部〕		〔支出の部〕	
科目	予算額	科目	予算額
会費収入	990,000	事務費	130,000
事業収入	100,000	事業費	1,200,000
雑収入	1,000	研修費	850,000
繰入金収入	338,300	広報活動費	200,000
		研究助成費	150,000
		予備費	99,300
収入合計	1,429,300	支出合計	1,429,300

▽ 役員の変更について ▲

今年度役員交代がありましたので、報告いたします。

【交代者】

旧役員 肥田 剛(二丈町社協)(幹事)

新役員 加藤博貴(志摩町社協)(副会長)

旧監事 三河峰子(三藩町社協)

新監事 久保秀史(黒木町社協)

【役職のみ変更】

早野佳雅(春日市社協)(副会長↓幹事)

『地職連合会費未納社協へお願い』

今年に入り、6月9日付けの文書にて、福岡県内の各市区町村社協様宛に、今年度会費の納入につきまして、お願いさせていただきましたが、未だご入金いただけない社協が数ヶ所ございます。お手数ではございますが、今一度会費入金のご確認をいただき、未納の場合は今年度会費を入金いただきますよう、よろしくお願い致します。

編集者雑記

最近個別のケースに関わる事がとても多くなりました。引きこもり、薬物依存、精神疾患、知的障害、認知症などなど。それぞれのお宅に定期的に訪問させていただき、部屋から出てもらうための声かけや、就労・職業斡旋、金銭管理、食生活の指導、入所手続き、生活保護申請

手続き支援、障害年金受給申請支援、世帯分離、家族教育、相談来訪案内など、多方面からのアプローチを試みています。もちろん、1人で出来るわけはなく、役所の福祉課や相談担当の職員、県の保健師と一緒に、「どうしたものか？」と話ながら行きます。

合併して、役所では担当が細分化されました(障害、児童、母子、高齢、保健、生保など)。ケースの問題は複合している事が多く、福祉係に持って行っても、「それは保健師じゃない」と、保健係にたらい回しされる様な事度々。

私たち社協は、あらゆる相談に親身になつて対応する様にしたいと、反面教師にさせて頂きます。

【発行者】

福岡県地域福祉活動職員連絡会

【事務局】

〒839-1306

福岡県うきは市吉井町新治372

うきは市社会福祉協議会内

TEL 0943(76)3977 FAX 0943(76)4329

E-mail: info@ukiha-shakyo.or.jp